

1年1組(〇〇名) 社会科(歴史的分野) 学びのデザインシート		
日時	〇月〇〇日(〇) 〇校時	指導場所 1年〇組教室 指導者 教諭 鍋島 太郎

### 1 単元名と本単元のルーブリック

単元名	単元3 【中世】武家政権の成長と東アジア [全5時間] 1章 武士の世の始まり ※『中学生の歴史』p52~65 帝国書院
-----	---

本単元のルーブリック			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
具体的な内容／単元末の評価	<input type="checkbox"/> 「武士はどのようにして政治の中心になったのか？」を知り、古代の天皇や貴族の政治と武士政権の違いをつかむ。 <input type="checkbox"/> 様々な資料から、鎌倉の武士や民衆の成長を背景として社会や文化が展開していったことを知る。	<input type="checkbox"/> 平氏政権と比べ、鎌倉幕府が長く続いた理由を、政策の影響度の視点でランキングにし、その根拠と理由を説明できる。 <input type="checkbox"/> 幕府と朝廷の関係、御恩と奉公の仕組みを資料として、鎌倉幕府滅亡の要因について、解説文を作ることができる。	<input type="checkbox"/> 単元を通じた問いの探究を通して、当時の政策、社会、経済などの現状や問題点について、級友や第三者との意見交換をもとに明らかにし、よりよい社会づくりの視点で鎌倉時代の政策評価をできる。
	A・B・C	A・B・C	A・B・C

### 2 単元計画

単元(全5時間)を通じた学習課題：鎌倉幕府滅亡の要因は本当に元寇なのか？		
時間配当	1時間ごとに全員が達成をめざす学習内容目標(めあて)	振り返り
1	1時間 P52~53 古代から中世への変化について、「律令制の変化」を視점에説明できる！ ※本シートを配付し、単元の見通しをもつ	
2	1時間 P54~55 なぜ武士が政治の中心になったのかについて、資料を使って説明できる！	
3	1時間 P56~57 なぜ平氏政権よりも鎌倉幕府が長く続いたのかについて、政策を比べた結果をランキングにして説明できる！ [本時]	
4	1時間 P58~61 鎌倉文化が広がった背景を「武士」と「庶民」の視点から説明できる！	
5	1時間 P62~65 本当に鎌倉幕府は元の襲来によって滅びたのか、資料をもとに判断できる！	

### 3 本単元の評価問題

(3/5時 ワークシート【思・判・表】 ※本時)

(5/5時ワークシート【思・判・表】)

まとめ	鎌倉幕府が行った政策で、幕府が長く続いたことに有効だったと考える順にランキングしてみよう！	
位	奥州藤原氏を滅ぼす	その順位にした理由は？(～と比べて～は、)
位	守護と地頭を置く	
位	武士と主従関係を結ぶ	
位	六波羅探題の設置(朝廷の監視)	
位	御成敗式目の制定	

まとめ	鎌倉幕府滅亡の要因は元の襲来だといえるか？ 【いえる ・ いえない】 それは、
-----	---

4 本時の学習展開

	学習活動	教師の指導・支援と ICT 利活用／ 評価 (方法)
導入	<b>気づく</b> 1 語り	○ [IWB] 本時用デジタル確認テストを IWB に提示し、テストを行う。 ・ 時間内に解答できたか。[観察 (知理)] ・ 班員と答え合わせができたか。[観察 (知)]
	2 先生の話聞く。	○ 本時の講座テーマ「黒船来たり！」を説明する。 ・ 興味・関心を持って話を聞くことができたか。 [観察 (知理)]
展開	<b>確かめる／確認する</b> 3 既習内容を確認する。 ・ グループごとにタイムキーパー、司会者の進行で PR タイムを進める。 ・ よりよい意見を参考にするために仲間と意見を交換する。	○ 各グループの振り返りタイムを支援する。 ・ 個に応じて司会がスムーズにできるよう支援する。 ・ 個に応じてよりよい意見を主体的に PR できるように支援する。 ・ 誤字脱字等の訂正をしているか、また指摘しあっているか。 [観察 (思判)] ・ よりよい意見を参考にしているか。[観察 (技表)]
	4 グループで『学び合い』ルールを確認する。	○ 『学び合い』ルールの確認をさせる。 ・ 個人で解決しよう！ ・ 仲間に相談しよう！ ・ 仲間に説明して分かってもらえるようにしよう！ ・ 笑顔でどんどんかかわろう！ ・ 仲間をつなごう！
	5 各自、本時の課題を確認し、ワークシートに沿って『学び合い』を進める。	○ 机間支援をしながら『学び合い』の支援をする。 《個人解決への個別最適化支援》 ・ 考える手がかりとなる図版や文書資料に注目するよう声かけをする。 ・ 用語の意味や内容については、デジタル教科書や資料集で調べるように指導する。 ・ 学習が進んでいない生徒、自分からかかわることを苦手とする生徒には、個に応じて生徒同士をつなげ学級内の帰属意識を持たせる。 ・ 学習進度に応じて A 問題と B 問題への取り組みを指示する。 《自己肯定感を高める支援》 ・ 良い探究をしている生徒、あるいはかかわりをしている生徒を可視化する。 ・ 主体的に活動している生徒は全体に紹介し自己存在感を持たせる。 《ICT 利活用の支援》 ・ デジタル教科書の効果的な利活用方法を指導する。 ・ デジタル教科書で探究しようとしている生徒には、個に応じて解説をしたり、質問を投げかけたりして探究心を高める。 ・ IWB 操作が苦手な生徒には、グループでデジタル教科書を活用している場面に入ることができるよう声かけをしたり、個別に指導したりする。 ・ 積極的に『学び合い』をしようとしているか。[観察 (関意態)] ・ 誤字脱字等をチェックしながらていねいに記述しているか。 [観察 (技表)] ・ A 課題を解決しているか。[観察 (関意態)] ・ B 課題に挑戦しようとしているか。[観察 (関意態)]
終末	<b>まとめる</b> 5 学力として身に付いたことを確認する。 ・ 振り返りテスト	○ 思考力や判断力を要する課題や多くの生徒が理解不十分と判断した内容を確認し、振り返りテストを行う。 ○ 『学び合い』を通してかかわり方が自他に効果的だった生徒を紹介する。 ○ 次回デジタル確認テストを確認する。

## 5 ワークシート